

三重看護学誌投稿規定

三重看護学誌編集委員会

1. 本誌の名称および目的

本誌の名称を三重看護学誌 (Mie Nursing Journal: MNJ) とする。MNJ は、看護学に携わる研究者、教育者、実践家等が、日々の研究・教育・実践活動上の課題や対策等について科学的根拠をもって広く一般に周知するとともに、独自性の強い研究成果を世に問うことを目的とする。そのため、幅広い看護学分野における論文を掲載し、原則として年1回発行する。

2. 投稿資格

原則として、筆頭著者または共著者に、以下の項目に該当する者が含まれているものとする。ただし、編集委員会で承認された場合には、この限りではない。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科教職員
- 2) 三重大学医学部附属病院の職員
- 3) 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻修了者等

3. 投稿原稿の種類

原稿の種類は5種類であり、それらの基準は以下のとおりとする。枚数は、図表を除くものとする。

1) 総説 (12頁以内)

ある主題に関連した研究の総括であり、多面的な知見の集約と文献等のレビューにより、当該テーマについての学問的状況の概説と考察を行ったもの

2) 原著論文 (16頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実に基づき得られた知見と実践への示唆について、論理的かつ学術的に述べられている研究論文

3) 研究報告 (12頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実を含み、得られた知見が論理的に述べられている研究論文

4) 資料 (12頁以内)

実践または教育の発展に向けて、論理的に科学的根拠を示した研究論文

5) その他 (4頁以内)

委員会報告、編集委員会からの依頼原稿 (巻頭言など)

4. 倫理的配慮

研究の着手、計画、実施、成果公開のすべての過程において倫理的な配慮がなされた論文を投稿する。ヒトおよび動物が対象である研究は、研究倫理審査委員会等の承認を経て、その旨を論文中に明記する。

5. 利益相反

全ての著者は、発表内容に関係する企業・組織・団体との利益相反について記述する。発表する研究の遂行や論文作成において利益相反となる経済的支援を受けた場合は、その旨を「謝辞」欄の後に記述する。利益相反に相当しない場合は、「本研究における利益相反は存在しない」と明記する。

6. 執筆要領

原稿の作成は、別に定める執筆要領に従うものとする。

7. 投稿手続き

- 1) 投稿原稿を3部 (正本1部、副本2部) 印刷して提出する。ただし、副本には、投稿者氏名・所属、謝辞等の投稿者が特定される表記を削除する。
- 2) 投稿原稿を保存した電子媒体 (USBメモリが望ましい) も提出する。電子媒体には筆頭著者名を記入する。
- 3) 本学ウェブサイトよりダウンロードした「投稿申込書」に必要事項を記入し、添付する。
- 4) 「三重看護学誌原稿」と表に朱書きした封筒に上記1)~3)を入れ、受付期間内に下記に書留郵送または持参する。受付期間は、当該年度の初めに編集委員会が決定し、本学ウェブサイトに掲載する。

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻内 MNJ 編集委員会

8. 原稿の受付および採否

- 1) 上記7の手続きを経た原稿の到着日を受付日とする。
- 2) 原稿の採否は査読を経て、編集委員会が決定する。編集委員会の依頼した者が査読を担う。
- 3) 査読により論文内容の追加・修正を求められた投稿者は、指定期間内に再提出する。期間内に再提出がない場合、投稿を取り下げたものとして扱われる。
- 4) 掲載論文の種類については、著者および査読者の意見を尊重し、編集委員会が最終的に決定する。

9. 校正

論文受付後の著者校正は原則1回とし、校正の際の加筆を認めない。

10. 著作権

掲載論文に関する著作権は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に帰属する。掲載論文は電子化され、インターネット上に公開される。

11. 著者が負担すべき費用

- 1) 掲載料 原則として無料とする。
- 2) 別刷料 10部を超えて別刷を希望する場合は、著者負担とする。

附 則

この規定の改訂は、平成30年3月27日より施行する。

三重看護学誌執筆要領

三重看護学誌編集委員会

1. 投稿する原稿は、未発表のものあるいは他の学術雑誌に投稿中でないものとし、原則として和文または英文とする。和文論文にも英文の題名をつける。

2. 原稿は、次の要領に従い、綴りの順序は以下の番号の順とする。

1) 表紙

表題（和文および英文）、著者名（和名の場合は英語併記）、所属（日本語表記）を記述する。また、本文枚数（文献を含む）、図・表および写真等の枚数をそれぞれ明記する。

2) 要旨

和文（400字程度）および英文（250words）とする。要旨の後には、5単語以内のキーワード（Key words）をつける。但し、資料およびその他の原稿には不要とする。

3) 本文

(1) 原稿はA4判横書きで行番号を入れる。本文の書式は、和文では1,200字以内（30文字×40行）、英文ではダブルスペースとする。

(2) フォントは、和文においてはMS明朝体、英文においてはTimes New Romanを用い、文字サイズを11ポイント、英数字を半角表記とする。

(3) 年号には原則として西暦を使用する。

(4) 専門用語に略語を用いる場合、初出時に正式名を記述し、括弧内に略語を記す。

(5) 本文中の文献表記については、筆頭著者の姓と発表年を記す。著者が2名以上の場合の表記を以下に例示する。

例1) 和名の場合

著者名が主語になる場合：「竹内ら（2017）は、……」

著者名を引用文の後に記す場合：「……（竹内他, 2017）と述べている。」

例2) 欧名の場合

著者名が主語になる場合：「Beckら（2017）は……と述べている。」

著者名を引用文の後に記す場合：「……（Beck et al, 2017）と述べている。」

4) 文献

引用文献を著者名のアルファベット順に列記する。文献欄への表記を以下に例示する。

(1) 雑誌の場合

①著者名（発行年）. 論文表題, 雑誌名, 巻（号）, 始頁 - 終頁.

(例)

畑下 博世, 鈴木 ひとみ, Denise Saint Arnault, 他 (2015). ストレス対処に関する日本人女性の文化的特性について, 日本地域看護学会誌, 18 (2-3), 13-22.

② Author A.A. Author B.B. Author C.C., et al. (year). Title of article, Journal name, volume (number), pp-pp.

(例)

Tanimura S. Shima M. (2014). A multi-agent-based model on the ripple effect from school-based interventions to the broader community: an in silico experiment, Journal of International Health, 29(2), 51-58.

③出版前のオンライン公開版の場合は DOI を付ける

(例)

Holm A.L. Severinsson E. (2014). Effective nursing leadership of older persons in the community –a systematic review, Journal of Nursing Management 22, Advance online publication. doi: 10.1111/jonm.12076

(2) 単行本の場合

①著者名（発行年次）. 書名, 版数, 始頁 - 終頁, 出版社名, 発行地.

(例)

中野正孝, 西出りつ子 (2012). 初心者のための保健・医療系研究論文作成に必要な統計的方法の基礎知識 第1部 –統計的方法の予備知識と事例による統計解析 統計学活用のための予備知識, 第1版, pp.12-13. 情報機構, 東京.

(例)

Meleis A. I. (2017). Theoretical Nursing: Development and Progress (6th ed.), pp.61-63. Wolters Kluwer. China.

②著者名（発行年次）. 分担部表題, 編著者名, 書名（版数, 引用始頁 - 終頁）. 出版社名, 発行地.

(例)

Imai N. Imai Y. (2011). Chapter 14 Necessity of Counseling Institution for Sick Building Syndrome Patients. Sabah A. Sick Building Syndrome: in Public Buildings and Workplaces (1st ed.), p.261, Springer, Heidelberg.

(3) 翻訳書の場合

①原著者名（原書籍刊行年）. 原著書名. 出版社名, 発行地／翻訳者名（訳）（刊行年）. 翻訳本名（版数, pp. 引用
始頁 - 終頁）, 出版社名, 発行地.

（例）

Polit D.F. Beck C. T (2004). Nursing Research Principle and Methods 7th ed. Lippincott Williams & Wilkins,
Philadelphia / 近藤潤子 監訳 (2010). 看護研究 原理と方法 第2版 pp.26-27, 医学書院, 東京.

5) 図表

論文一編中の図（写真を含む）や表は、5つ以内とし、原稿の本文中には図表を挿入しない。別紙に、図1、表1、写
真1、等の通し番号を付け、1頁に1図表として原稿末尾に添付する。

附 則

この規定の改訂は、平成29年6月7日より施行する。

この規定の改訂は、平成30年3月27日より施行する。

※本巻では、平成29年6月7日改訂の規定に基づき作成された投稿原稿を受け付けた。

学外査読者名

中野 正孝（鈴鹿医療科学大学）

編集後記

三重看護学誌（MNJ）第20巻をお届け致します。

無事に第20巻の発刊を迎えられましたことは、ご執筆をいただいた方々、査読をご担当くださいました先生方、そして、発刊に関するサポートをしてくださいました事務の方々のご協力があったからこそと、編集委員一同、心より感謝しています。

2017年（平成29年）は、トランプ大統領の米国第一主義宣言に始まった年でした。世界各地でテロ事件が多発し、隣国からはミサイルが何度も発射されました。国内のニュースを振り返っても、小学校の認可取り下げに関する事件に始まり、大手企業の無資格審査でのリコールなど、社会不安が広がるようなニュースが目立ちました。しかし、年が明けて、平昌で開催された第23回オリンピック冬季競技大会の様子は世界平和への希望を持たせてくれました。

看護学教育においては、文部科学省による「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」の策定が最大トピックであったかと思います。看護系大学の急増や地域包括ケアシステムの構築等により、教育の充実や質の保証が求められています。看護の世界は、今後も日本の経済、社会情勢を背景として揺れ動いていくものと思われます。

第20巻MNJでは、記念号として、研究科長と専攻長に巻頭言の執筆をいただき、冊子の名前を金色で飾りました。この色には、まず、三重大学医学部看護学科をこれまで支えてくださった皆様と、医学系研究科看護学専攻の出発を応援してくださっている皆様への感謝の意を込めました。次に、本看護学専攻において、日々、研究、教育、組織運営等への絶え間ない努力と研鑽を積み重ねる教員達の輝きを示す意味を込めました。

これからも三重看護学誌（MNJ）が、その役割を全うし続けられることを祈念しています。

平成30年3月

三重看護学誌編集長

今井奈妙

編 集 委 員

今井 奈妙・西出りつ子・竹内佐智恵・犬丸 杏里・大北 真弓

三 重 看 護 学 誌

第 20 卷

印 刷	2018 年 3 月 26 日
発 行	2018 年 3 月 26 日
発 行 者	三重大学大学院医学系研究科看護学専攻 〒 514-8507 津市江戸橋 2 丁目 174 番地 TEL (059) 232 - 1111 (代) FAX (059) 232 - 8065
印 刷 所	伊 藤 印 刷 株 式 会 社 〒 514-0027 津市大門 32 - 13 TEL (059) 226 - 2545 (代) FAX (059) 223 - 2862
